

29pmG-056

実習生による薬局実務実習情報交換会の実施とその有用性

○中瀬 真理¹, 阿部 真治¹, 柴田 洋文¹, 東 満美¹(¹徳島大薬)

【目的】薬局実務実習は各薬局の業務内容に差異があることから、モデル・コアカリキュラムに準拠した実習であっても実習施設によって実習内容に特徴が出る。そこで本学では、学生が実習で得た有益かつ貴重な情報を交換し合うことで互いの実習内容を補完し、施設横断的に実習成果を高める目的で、薬局実務実習情報交換会を実施している。オフィシャルな情報交換の場を設けることの有用性について、3年間の検証結果をまとめたので報告する。

【方法】平成22年度から薬局実務実習は複数施設で実施されており、情報交換会は平成23年度より11週間の実習期間中7週終了時に、薬局実務実習学生全員が一同に会し実施された。薬局実務実習終了後、学生及び指導薬剤師にアンケート調査を行い検証した。アンケート対象学生は平成22、23、24年度各41名、42名、40名、対象指導薬剤師は平成22、23、24年度17名、15名、14名であった。

【結果・考察】情報交換会のなかった平成22年度、すべての学生が他施設の実習状況を知りたいと思っており、93%の学生が他施設の実習生から何らかの形で情報収集していた。このことから平成23年度に約2時間の情報交換会を開催したが、時間が短いとの意見があり、平成24年度は4時間に延長した。その結果、83%の学生が時間的にちょうど良いと答えた。また平成24年度学生は「自分が体験できないことも発表にあり参考になった」(90%)、「他施設の実習状況を知ることができてよかった」(83%)、「他施設の独自の取り組みを知ることができてよかった」(73%)と答えており、学生にとって有用な情報交換会が実施できたと考えられる。今回の調査で、開催時間、時期、回数などは学生、指導薬剤師共に概ね良好であったことから、今後もより一層の実習成果の向上を目指し改善していきたい。